

みんなでつくる

身近な医療



コンタクトレンズも一因 まぶたを上げる筋肉が緩む

人間のまばたきの回数は、およそ1日1万回。しかし、年齢を経ると、「目が非常に疲れる」「目の周りや奥の違和感」「まぶたが重い」などを感じる人が出てくる。神戸大学医学部形成外科・美容外科の一瀬晃洋准教授は「原因の一つは眼瞼下垂^{がんけんかすい}。その多くは、まぶたを上げる筋肉(上眼瞼挙筋)とまぶたをつなぐ腱膜^{けんまく}が緩んだりはずれたりしてしまい、まぶたが上がりにくくなるために起こります」と語る。症状はまぶたが瞳孔をふさぐので光が入らず、ものが見えにくくなるというもの。開きにくくなったまぶたを脳が無理に開けようとするので、上眼瞼挙筋と目の周りの筋肉が常に緊張。そのため、額のシワ、目の疲れ、頭痛や肩こり、不眠など数多くの症状の原因となる。しかし眼瞼下垂がそんな症状を引き起こしているとは思わないまま、苦しんでいる人も多いという。

まぶたが下がる「眼瞼下垂」 頭痛や不眠の原因にも

神戸大学医学部形成外科美容外科 准教授 一瀬晃洋さん

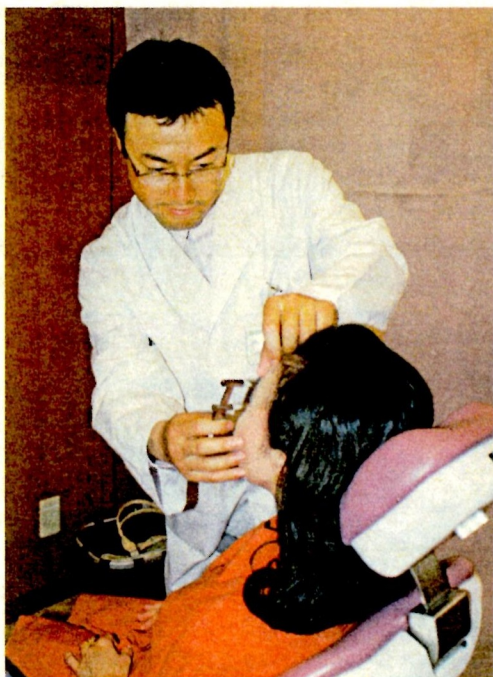
眼瞼下垂の原因は「主に後天的なもので、加齢のほか、コンタクトレンズの長期使用などで上眼瞼挙筋や腱膜が傷むケースが多い」。コンタクトレンズが原因の場合、初期の眼瞼下垂なら、使用をやめれば元に戻ることもあるという。症状が進んでしまった場合は、手術で緩んだ腱膜を治療する。眼瞼下垂の手術は保険が適用され、3割負担の場合、費用は両目で約5万円という。

治療のゴールは機能だけでない 自然なまぶたを手に入れる

「約1センチの小さな皮膚切開で腱膜を治

療する『部分切開法』なら、片目約15分

で済み、傷痕や腫れも少ない。さまざまな症状を詳しく記録し術後と比較することにより、QOL(生活の質)の大きな向上を自ら実感することが重要」と一瀬准教授。手術が成功すると、目は本来の輝きを取り戻すという。しかし、眼瞼下垂を解決しても、自然な顔貌^{けんぼう}にならないと、社会生活上ストレスが生じる。自分のまぶたの特徴を踏まえて、術後どんなまぶたになることが望ましいのか、それはどうすれば可能なのか、術前に医師と十分話し合っておくことが必要だ。「例えば、眼瞼下垂と、まぶたや額のたるみがかぶさっている状態は異なるもの。たるみを取り除いて自然なまぶたにするには保険適用外の手術も検討しなければならぬ。そういった説明をきちんとする専門の形成外科や眼科などの医療機関を選んでほしい」



「筋肉や神経の病気による眼瞼下垂や、眼瞼痙攣^{けいれん}という目を閉じてしまう病気もある。本当に眼瞼下垂か見極め、患者さんに病状を十分理解してもらい、治療を選択する」と一瀬准教授

